京都大学文学研究科修士課程修了生アンケート集計結果

令和 4 年 3 月実施

京都大学文学部・文学研究科では、卒業時・修了時にアンケートを実施し、教育研究活動の自己点検・評価に役立てるとともに、その集計結果を公開しています。修士課程修了生の皆さん、ご協力ありがとうございました。

【結果の概評】

以下、結果の概評に移る。なお、一部項目の結果については 2019 年度から今年度にかけての推移を示している。その際、括弧内に「〈2019 年度の数字〉→〈2020 年度の数字〉→〈今年度の数字〉」という形式で記載した。また、選択肢「A」を最高評価として満足度や達成度を問う項目について講評する場合、「A」「B」という上位 2 つの回答を合わせて〈肯定的な回答〉とみなしている。

今年度は修了者 117 名に対し、103 名から回答を得た。回答率は昨年並みの 88%となっている。

Q.2 は大学院への進学を決めた時期を問うものである。おそらくは大学院進学を念頭に大学入試に臨んだであろう者が 2 割前後を占める一方で（23.5%→19.7%→23.3%）、最も多かったのは系分属後の 3 回生時点である（40.8%→28.2%→29.1%）。

本学の基本理念である「自学自習」の実現度合いを問う Q.4、本研究科への満足度の度合いを問う Q.5 では、いずれも肯定的な回答が殆どを占め、比率はそれぞれ 81.6%、91.2%と例年並みの水準に達している。また、本研究科で身につけたもののうち、今後役立つと考えられるものを問う Q.7 では、これも例年の傾向であるが、専門的知識（70.9%）、研究能力（66%）、問題発見、解決能力（76.7%）が特に高い割合を示している。いずれも、本研究科の教育プログラム、研究環境が学生から高く評価されている証左であろう。

研究科の DP の達成度合いを問う Q.9~12 では、原典、一次資料の分析力に関連する Q.10（81.5%）、専門家としての責任感と倫理性に関連する Q.11（85.4%）において肯定的な回答が 8 割を超えた。特に、Q.11 では一昨年、昨年と一貫して高い数値を維持しており（87.8%→85.9%→85.4%）、研究公正教育の成果の表れとみなせるかもしれない。ぎゃくに、海外に研究成果を発信するための語学力に関連する Q.12 では肯定的な回答が 45.7%にとどまっており、こちらは改善の余地があろう。

【自由記述欄】

自由記述欄では、論文作成指導体勢について改善を求める意見が見られた。これは学部卒業生の意見とも通じるものである。また、詳細については全く記載がないが、ハラスメント対策が機能していないとの意見もあった。

以下、自由記述欄の内容をそのまま共有する。

- 2年間の学習生活において、私は自分の好きなこと・向いていることをちゃんと見つけました。ありがとうございました。
- 奨学金の受給制度をもう少し学生目線で考えてほしいです。
- ハラスメント対策が機能していないと感じた。
- 第一に、大体の学生が「放置」されているという印象も受けました。私は幸い、指導教員の方が教育に積極的な方だったのでいつも相談できたのですが、まったく指導を受けられなかったという学生も何人か見ました。第二に、文学研究科で開講されない授業は単位取得不可、聴講のためには別途の申し込み手続きありというのがかなり不満でした。京都大学では学問的交流があまりされていないと思いました。第三に、京都大学のカリキュラムにはシステム性が欠けています。各領域がばらばらであり、専門性が高いというより、学部生向けの授業のように幅広い情報をさらっと触れてみるくらいの授業が多数を占めていました。第四に、研究を行うことにおいて、高い外国語力（特に英語力）を持っていることは大事ですが、英語で行われる授業が非常に少なく英語で研究を行いたいと思う人に対しては支援がまったくありません。第五に、文学研究科の窓口の方々ですが、相談しに行くたびに塩対応で非常に困っていました。大学生もとりあえず大人なので、相手を尊重する言葉遣いではないといけないと思います。
- 専門分野の系統的講義が少なく、外国語講読偏重な気はしていました。
- 京都大学の特徴としての自立自習が理解していますが、研究方法は必ず身につけなければならないもので、大学院生、特に修士にとっては、完全に自分の力でできるものではない。もしそうでしたら、大学に入る必要もなくなる。ということで、研究方法や、論文の書き方について、様々な授業があれば、いいと思います。

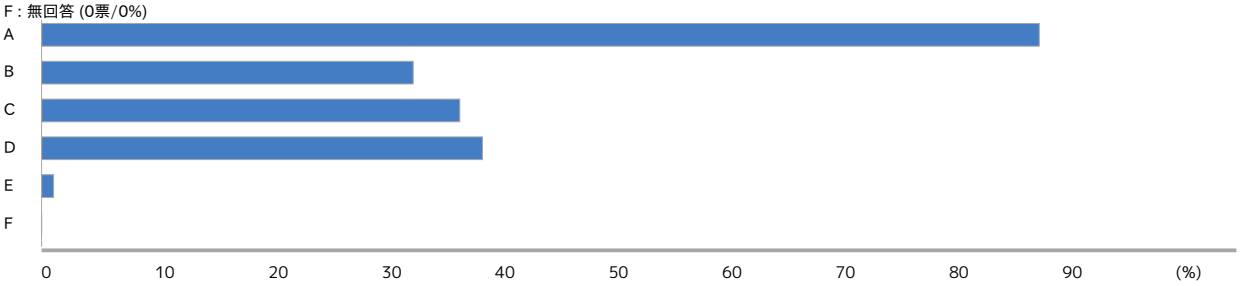
アンケート名	令和３（2021）年度修士課程修了者アンケート
部局	文学研究科
対象者数	117
回答者数	103
回答率	88

結果

(Q.01)　あなたの出身大学・学部等についてお聞きします。
A : 京都大学以外の日本国内の大学 (29票/28.2%)
B : 京都大学の他学部、研究科等 (7票/6.8%)
C : 京都大学文学部 (45票/43.7%)
D : 日本以外の大学 (21票/20.4%)
E : その他 (1票/1%)
F : 無回答 (0票/0%)

(Q.02)　あなたが大学院へ進むことを決めたのはいつ頃でしたか？
A : 学部入学後 (24票/23.3%)
B : 系分属後（2回生のとき） (6票/5.8%)
C : 専修分属後（3回生のとき） (30票/29.1%)
D : 4回生になってから (27票/26.2%)
E : 大学卒業後、社会に出てから (12票/11.7%)
F : その他 (1票/1%)
G : 無回答 (3票/2.9%)

(Q.03)　進学動機のなかで重要な位置を占めたのはどのような要因でしたか？（複数回答可）
A : あなたが選んだ研究分野についてより深く学びたいと思った。 (86票/83.5%)
B : 大学院での研究・教育が思考力の向上に役立つと思った。 (32票/31.1%)
C : 将来、研究・教育職に就くことを希望していた。 (36票/35%)
D : 企業等に就職する前に、もう少し学問を続けたいと思った。 (38票/36.9%)
E : その他 (1票/1%)
F : 無回答 (0票/0%)

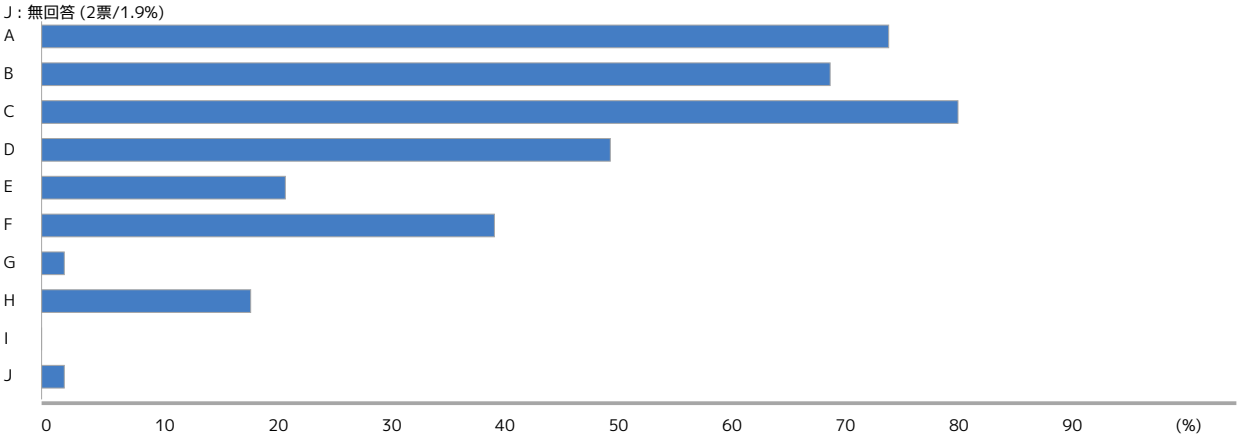


(Q.04)　京都大学は「自由の学風」を伝統とし、「自学自習」を基本的な理念としています。これに関連して、あなたは文学研究科での授業、研究指導について、どのように考えま
すか？
A : 自学自習の能力が十分に養われるような形で行われている。 (45票/43.7%)
B : 自学自習の能力がある程度養われるような形で行われている。 (39票/37.9%)
C : どちらとも言えない。 (10票/9.7%)
D : 自学自習の能力が養われるような形で行われていない。 (9票/8.7%)
E : その他 (1票/1%)
F : 無回答 (-1票/-1%)

(Q.05)　あなたは文学研究科で学んだことに満足していますか？
A : 十分に満足している。 (44票/42.7%)
B : それなりに満足している。 (50票/48.5%)
C : どちらとも言えない。 (6票/5.8%)
D : 後悔している。 (3票/2.9%)
E : その他 (0票/0%)
F : 無回答 (0票/0%)

（Q.06）　4月以降の進路についてお聞きします。
A：博士課程進学（他大学も含む）（34票/33%）
B：博士課程進学の準備 (6票/5.8%)
C：一般企業に就職 (39票/37.9%)
D：官庁、地方自治体等に就職 (7票/6.8%)
E：教員、司書等の専門職に就職 (8票/7.8%)
F：その他 (1票/1%)
G：無回答 (8票/7.8%)

（Q.07）　文学研究科で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものを挙げてください。（複数回答可）
A：専門的知識 (73票/70.9%)
B：専門分野の研究能力 (68票/66%)
C：自分で問題を発見し、解決を図る能力 (79票/76.7%)
D：一般的な教養 (49票/47.6%)
E：国際感覚 (21票/20.4%)
F：外国語の能力 (39票/37.9%)
G：リーダーシップ (2票/1.9%)
H：社会的常識 (18票/17.5%)
I：その他 (0票/0%)
J：無回答 (2票/1.9%)



（Q.08）　差し支えなければ、あなたが属していた専攻を教えてください。（国際連携文化越境専攻の方は回答していただく必要はありません。）
A：東洋文献文化学 (15票/14.6%)
B：西洋文献文化学 (13票/12.6%)
C：思想文化学 (17票/16.5%)
D：歴史文化学 (22票/21.4%)
E：行動文化学 (27票/26.2%)
F：現代文化学 (6票/5.8%)
G：無回答 (3票/2.9%)

（Q.09）　以下、Q.09からQ.12で、文学研究科のディプロマポリシーに関してお伺いします。以下の項目についてどの程度達成できたか教えて下さい。

哲学・歴史学・文学・行動科学のそれぞれの専門分野において、高度な知識に基づく研究能力と、高度な専門性を必要とする職業に従事するための能力を身につけている。
A：達成できた (16票/15.5%)
B：ある程度達成できた (54票/52.4%)
C：どちらとも言えない (19票/18.4%)
D：あまり達成できなかった (10票/9.7%)
E：達成できなかった (2票/1.9%)
F：無回答 (2票/1.9%)

（Q.10）　それぞれの専門分野において、原典や一次資料の分析に基づいてオリジナリティを有する研究を進める能力を身につけている。
A：達成できた (27票/26.2%)
B：ある程度達成できた (57票/55.3%)
C：どちらとも言えない (14票/13.6%)
D：あまり達成できなかった (3票/2.9%)
E：達成できなかった (1票/1%)
F：無回答 (1票/1%)

（Q.11）　専門家としての責任感と倫理性をもって研究を遂行する能力を身につけている。
A：達成できた (31票/30.1%)
B：ある程度達成できた (57票/55.3%)
C：どちらとも言えない (11票/10.7%)
D：あまり達成できなかった (3票/2.9%)
E：達成できなかった (1票/1%)
F：無回答 (0票/0%)

（Q.12）　研究成果を世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけている。
A：達成できた (12票/11.7%)
B：ある程度達成できた (35票/34%)
C：どちらとも言えない (34票/33%)
D：あまり達成できなかった (15票/14.6%)
E：達成できなかった (7票/6.8%)
F：無回答 (0票/0%)